

花王すみだ事業場中央棟

Kao Sumida Jigyajo Chuoto

No. 10-061-2020作成

新築
事務所

発注者	花王株式会社	カテゴリ	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所 SHIMIZU CORPORATION		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	清水建設株式会社		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

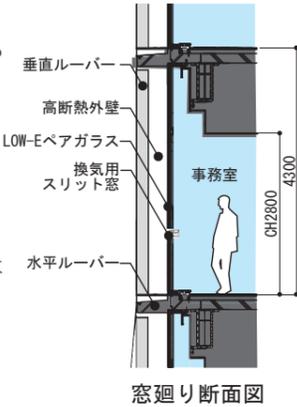
従業員と地球にとっての『すこやか』オフィス

すみだ事業場100周年再整備とコンセプト

大正12年に操業を開始した花王すみだ事業場は、2023年に100周年を迎える。地区計画に従い緑地率28%の緑豊かな事業場に再整備を行う計画。中央棟はその最初のステップ。東日本大震災の経験や、海拔ゼロメートル地帯にあることを踏まえ、BCP機能の強化と花王ESG戦略に従った高い環境性能、レイアウト変更が容易なオフィス空間が求められた。これらに花王らしさを加え、従業員と地球にとっての『すこやか』オフィスを目指した。

外殻構造 STS構法 (Smart Tube Structure) ・平面計画・窓廻り日射遮蔽

RC造、SRC造の壁柱による外殻構造とすることで、窓廻りに柱型がないオフィス空間とした。平面計画は北側の安定した採光を求め、南側にコアを配置し整形な約50m×27mの空間 (約1350㎡) とした。水平ルーバー、垂直ルーバー、LOW-Eペアガラス、STS構法による高断熱外壁により、日射による熱負荷を抑制した快適なオフィス空間とした (夏季において13%低減)。



ストライプデザインの外壁



外壁コーナー部



建物データ	
所在地	東京都墨田区
竣工年	2020年
敷地面積	44,600㎡
延床面積	12,500㎡
構造	SRC造
階数	地上7階、塔屋1階

ストライプデザイン

石鹸と清らかな水をイメージし、STS構法と環境性能を外部に表現した白い外壁と青い窓のストライプデザインとした。これにより地球環境に溶け込む様を表現するとともに、事業場内の白基調、縦強調の既存建物と周辺環境にも溶け込ませた。

人に優しい空調の追及とZEBreadyの取得

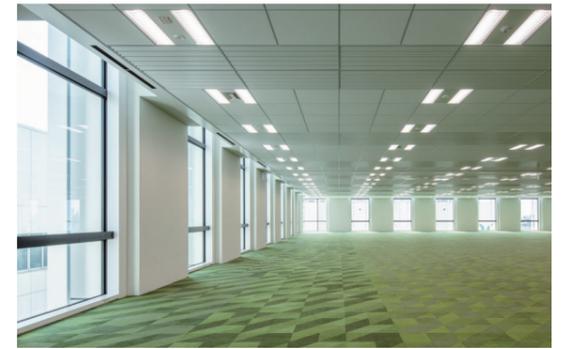
600角グリット天井に納めた輻射空調により、温度ムラと不快な風がなく、花粉等の拡散を低減する快適で健康な空調とした。さらにデシカント外調機、マイクロコジェネ等の環境技術と組み合わせ、ZEBreadyを取得した。また、屋上と外壁面に設置した太陽光発電パネルによる創エネを含めて、1次消費エネルギーを58%削減した。

BCP (震災・水害対策)

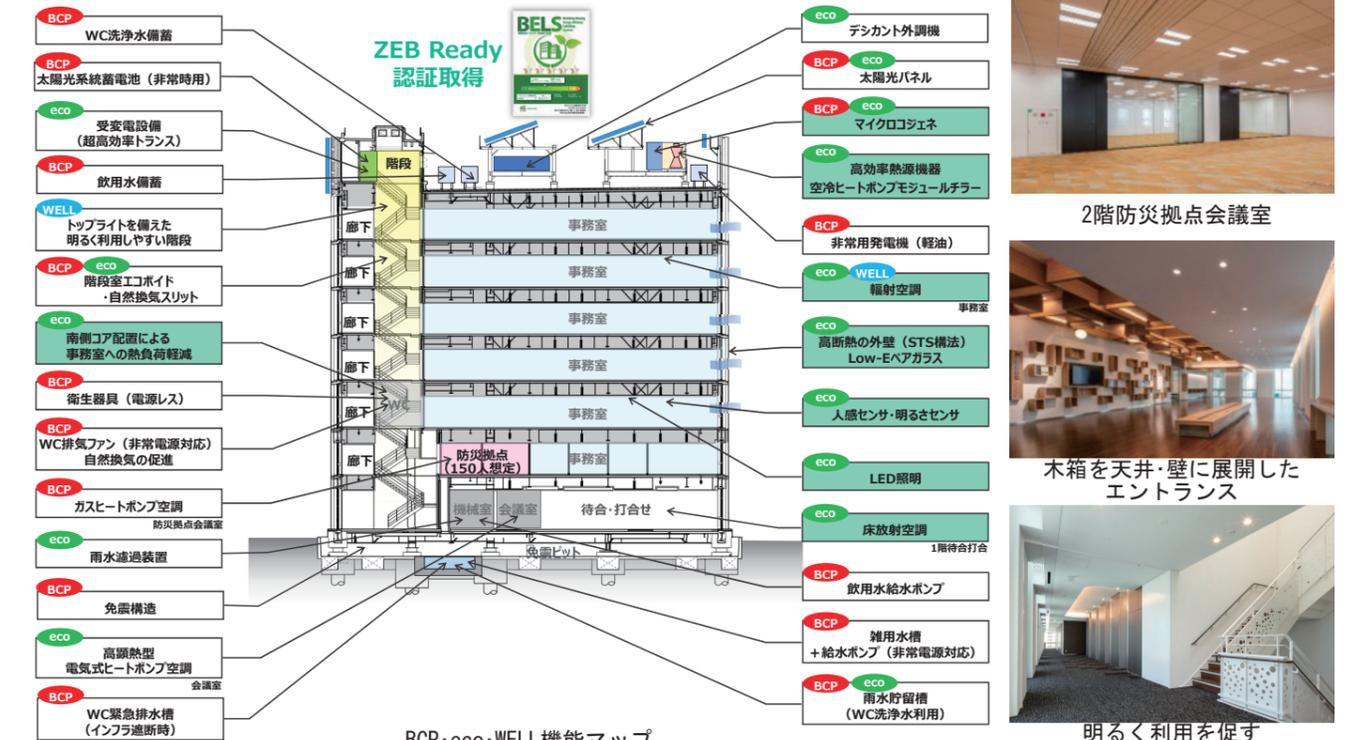
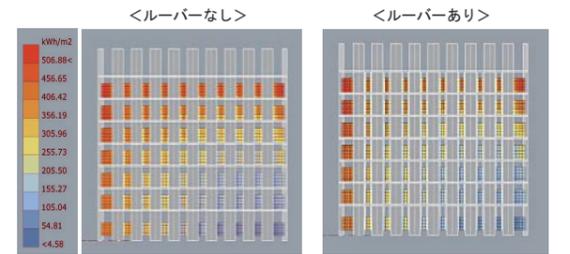
基礎免震構造を採用し、関東における災害時のBCP拠点として機能する。また、河川氾濫を想定し2階にBCP拠点となる会議室を配置し、事業場内の周辺建物と渡廊下でネットワークを形成した。このBCP拠点会議室には複数のバックアップ電源からの電源供給を可能としており、状況によって電源を切替え長時間のバックアップを行っている。

階段室と換気用スリット窓

コアを窓から離すことで、共用部は自然光あふれる明るい空間とした。階段室には中央に吹抜、トップライトを設け利用を促すことでWELLNESSに貢献する階段とした。非常時には窓の換気用スリット、階段室上部の換気窓を開けることで自然換気を行えるようにしている。



柱型のない窓廻り



設計担当者
 統括：黒河英明/建築：小野島新、深町俊平、寺田繁史/構造：稲葉知之/設備：重盛洗、福嶋康旗、中川伸治/インテリア：フィールドフォーデザインオフィス 大久保敏之、富摩桜
 /外構：フィールドフォーデザインオフィス 渡辺高史/地区計画：塚田和彦/写真撮影：エスエス東京

主要な採用技術 (CASBEE準拠)	
Q2. 2.	耐震性・信頼性 (基礎免震、設備BCP対応)
LR1. 1.	建築外皮の熱負荷制御 (Low-Eペアガラス、外断熱、水平ルーバー、垂直ルーバー)
LR1. 2.	自然エネルギー利用 (自然採光、自然換気、太陽光発電)
LR1. 3.	設備システムの高効率化 (放射空調、LED照明、屋光・人感センサー、デシカント空調)
LR1. 4.	効率的運用 (BEMS、省エネルギーの見える化)
LR2. 1.	水資源保護 (節水型機器、雨水利用)



2階防災拠点会議室



木箱を天井・壁に展開したエントランス



明るく利用を促すオープンな階段